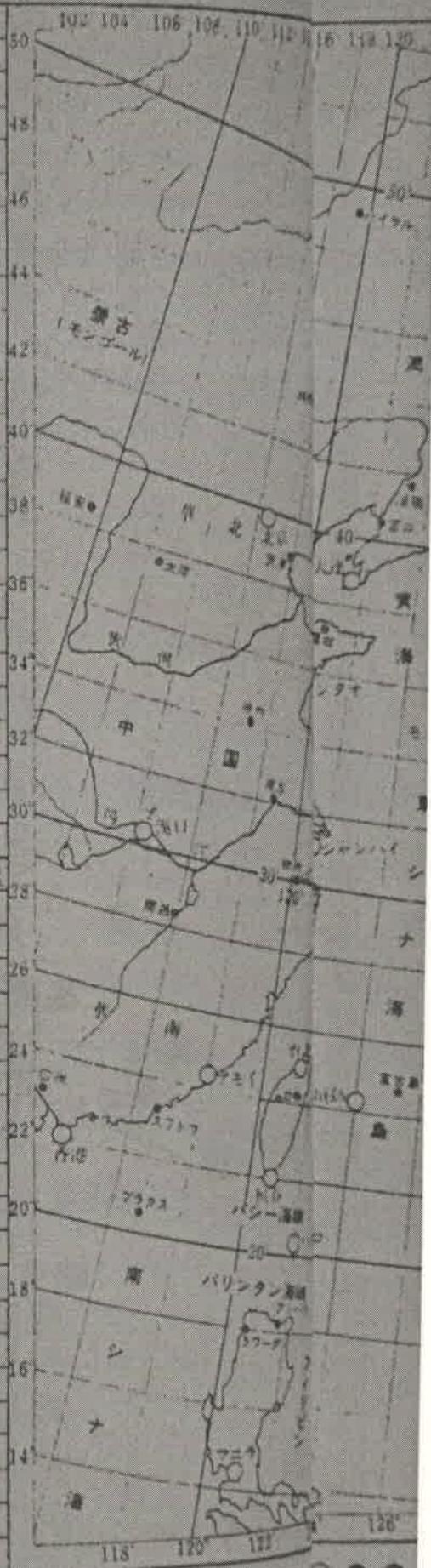


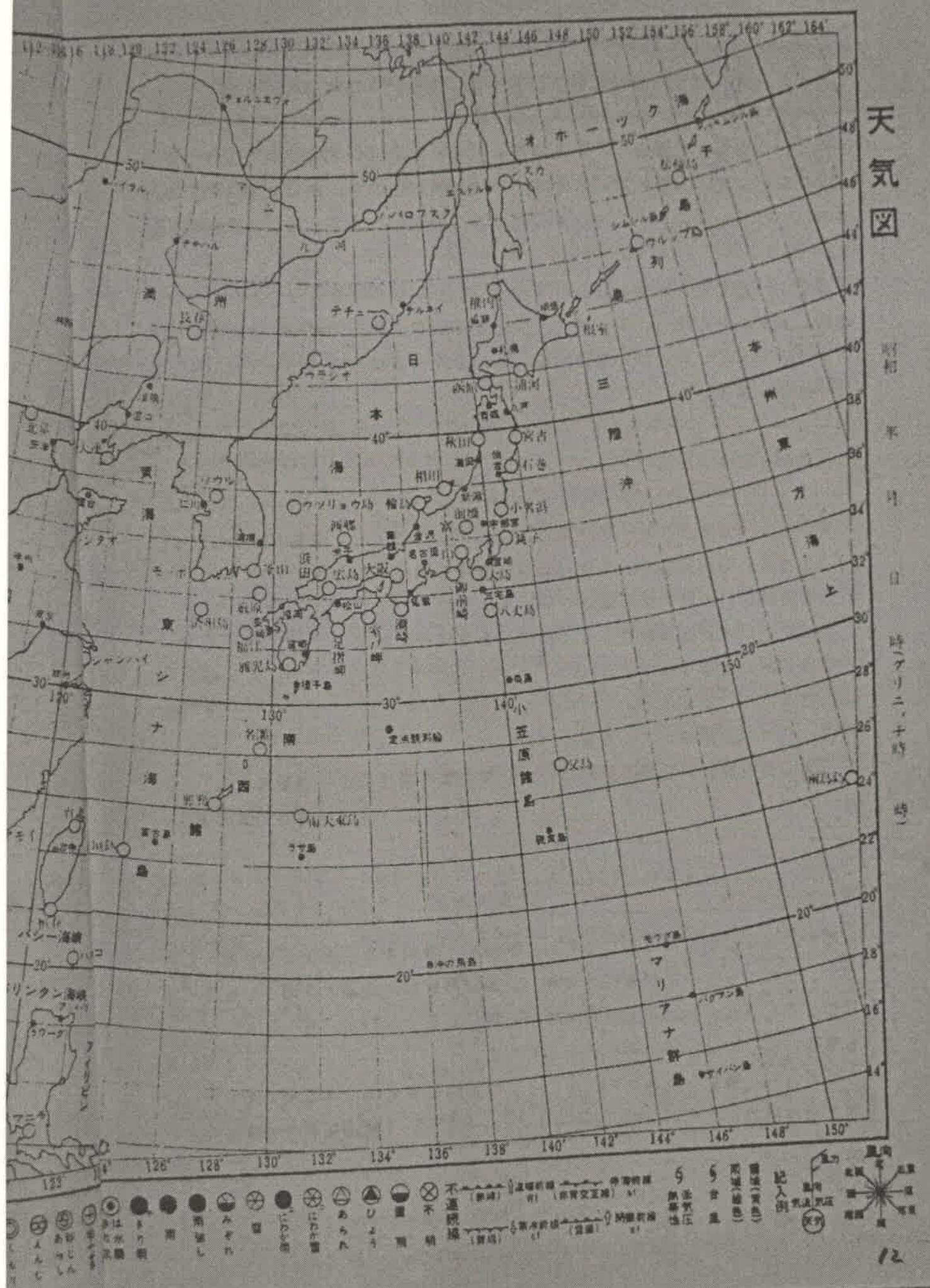
時 の 各 地 の 天 气						
地名	風向	風力	気圧	気温	地名	
古里島	○				チューー	
那覇	○				ラジオ	
大東島	○				ソウル	
名都	○				ブリュク	
鹿児島	○				釜山	
福江	○				モッホ	
巣原	○				濱川島	
足摺岬	○				台北	
室戸岬	○				恒春	
広島	○				長崎	
浜田	○				京都	
西郷	○				大連	
大阪	○				チンタオ	
湖神	○				シャンハイ	
鳥島	○				漢口	
八丈島	○				アモイ	
大島	○				香港	
御前崎	○				バスコ	
糸子	○				マニラ	
前橋	○				父島	
小名浜	○				南鳥島	
無島	○				富士山	
相川	○				時 の 船舶の 報告	
石巻	○				北緯 東経	風向 風力 気圧 気温
宮古	○					○
秋田	○					○
函館	○					○
瀬戸	○					○
根室	○					○
稚内	○					○
シスカ	○					○
ウレップ島	○					○
松輪島	○					○
セラフスク	○					○



日本地圖集成卷八

11

卷之三



---

「R-DAN」などの放射線検知器が異常な放射能を検出したときは

---

「R-DAN」の場合は、普通通常の2倍の放射能が測定された場合に警報がなるようセットされていると思います。残念ながら、簡易測定器のため信頼性がいま一つなので、2台以上の測定器で測定値を確認しあう必要があります。

つぎに、近くのR-DANなどを持っている人に連絡を取って異常がないか確認します。その間も、テレビ、ラジオの報道や、戸外の様子に注意を払って下さい。知っている人がいなければ、R-DAN本部(TEL. 045-472-3735)に電話で確認します。

---

原発から30km以内にいるとき

---

次の条件のうちどれか一つが成立するときは、ただちに避難を開始します。

- 2台以上の測定器で、2倍以上の放射能を測定したとき
- 発電所から大量の車が避難しているようだ
- 放射能が確かに漏れないと確信できる情報がある
- 口の中に金属の味がする
- 空気の感じが変だ
- 外の木の葉が散ってしまっている
- 他の測定器との確認は取れないが、測定値が通常の10倍を越えた

→【18】「至近距離で大事故発生」

---

原発から30km以上離れているとき

---

基本的には30km以内と同じですが、予防的に避難する必要性は若干低くなります。したがって、まず事故の有無、どの原発が放射能漏れを起こしたのかを確認しましょう。30km以上も放射能が拡散してるとしたら、R-DAN以外にも事故についての情報が得られるはずです。 →【04】

もちろん、放射能が漏れていることが確定的な場合や、測定値が通常の100倍などの場合はすぐに避難します。 →【18】「至近距離で大事故発生」

---

### 警察や自衛隊が出動して避難を誘導しているとき

---

警察や、自衛隊が出動している場合は特に急いでください。もし、近くに自衛隊の基地が無い場合は、事故発生からかなりの時間が経っているに違いありません。

また、もし30km以内に原発がない場合は2つの可能性があります。まず、原発でよっぽどの大事故が発生した可能性。もう一つはそれ以外の放射能漏れ事故が発生した可能性です。

まず、情報収集を行わなければなりません。チェルノブイリ原発の事故でも30km圏内の避難を行うに何日もかかりました。ですから、それまで全く情報がないのにそんな大規模な避難体制が取れるはずはないのです。

放射性廃棄物の輸送車が事故を起こしたなど、予想外の事故が発生している可能性が大きいと考えられます。避難が緊急を要することは確かですが、どちらに逃げればいいのか、警察・自衛隊の保護を受けるべきかどうかを判断しなければなりません。

もし、誘導が、近くの公民館などへの避難の場合は、かかわり合いにならぬよう早く遠くへ逃げるべきでしょう。もし、遠くに逃げるためのバスなどを用意してくれているのであれば、利用することもできます。ただし、高濃度の汚染にさらされている場合は、隔離されたまま、さらに被曝を受ける結果になる可能性があります。

→【18】「至近距離で大事故発生」

---

### 政府・自治体の発表をどう読むか

---

近くにある原子力発電所の場合、事故の情報を持っているのは電力会社ですが、遠くの原子力発電所や、外国の事故、核実験などによる放射能汚染の情報は国や地方自治体に頼るほかありません。政府や地方自治体には外国からの情報も入ってきますし、何より放射能監視用のモニタリングポストを始め、直接環境状態を測定する手段を持っているからです。それでは彼らの言ふことはどの程度信用できるのでしょうか。

チェルノブイリ原子力発電所の事故の際に、ヨーロッパ各国の政府や地方自治体が取った態度が参考になるでしょう。残念ながら私達の期待に答えてくれた国はほとんどありませんでした。

十分に情報を持っていないので、これがすべてではないかも知れませんが、ほとんどの国が事故後すぐに「安全宣言」を出しました。手元にドイツの状況をまとめた資料がありますが、ドイツではまず安全宣言が出て、それから放射能雲が襲い、詳細な情報は、報道管制がひかれ全く入って来ない。政府が「実は危険なレベルの放射能にさらされていた。」と公表したのは被曝のピークが過ぎた3日後でした。東ヨーロッパ諸国でも全く情報が手にはいらないため、西の国に近い地域で受信できる西側の報道が口コミで拡がっていくのが唯一の情報だったようです。

外国で起こったならともかく、日本で事故が起り、かつ政府や自治体が安全宣言を出したりしたら、これは大事故に決まっています。「安全宣言」は、あくまでパニックを恐れてのことです。

たとえば、当局による「屋内避難」は何を意味するのでしょうか。これは屋内に避難していれば助かるということでしょうか。残念ながらそうではありません。放射能が大量に漏れ出しているときに発せられるもので、当局の原発事故対策としては最大級の対策で、はっきり言って緊急事態なのです。すぐに避難を開始しなければなりません。 →【18】「至近距離で大事故発生」

このように、原子力発電所のもたらす災害は、非常に大規模なものですし、その影響が及ぶ範囲も日本を越える範囲になるでしょう。ですから、いざ事故が起こった場合、それを収拾できるのは、政府だけでしょう。しかし、 Chernobyl のときに各国政府が取った対応を見てみると、政府は決して私たちを助けてはくれないようです。

ソ連では、すぐに大規模な軍の動員と、事故を食い止めるために必要な専門家の動員が行われました。これは、確かに事故の影響を最小限に食い止めるために必要なことだったでしょう。しかし、住民の迅速な避難はあとまわしにされたのです。その結果、事故の発生をすぐに知って、迅速に避難した原発職員の方が、避難の指示がすぐには出なかった、やや離れた場所の住民より被曝量が少ないとという結果になりました。

## 電力会社の発表の読み方

もし、たった今電力会社から、「今日（昨日）〇〇原子力発電所で小規模の事故が発生しましたが放射能は全く危険の無いレベルです。安心してください。事故は処理中ですが急のためあまり戸外に出ないようお願いします。」という発表があったとします。

はっきり言って緊急事態です。すぐに情報を集め、避難を開始しなければなりません。そのわけを説明します。

日本の原子力発電所は、ほとんどが電力会社の発電用原子炉です。また、規模的にも、大規模で、事故の影響が大きいものはすべて発電用原子炉です。ですから基本的には電力会社の発電用原子炉が正常に運転されているかどうかが問題になります。

では、もし電力会社の原子力発電所で何らかのトラブルがあった場合、これまでに電力会社は私達にどのような情報を提供してきてくれたのでしょうか。

はっきり言って、事故の初期段階で原子力発電所や電力会社からの情報を期待することはできません。つまりすぐに原子炉に緊急停止をかけるとか、すぐに避難すれば被曝を最小限に食い止められるという段階での情報は全く期待できないということです。

残念ながら、過去の事例を見る限り、事故を隠すことはあっても積極的にそれを公表した例はありません。公表どころか、義務づけられた自治体への報告さえしなかったということが何度もあるのです。

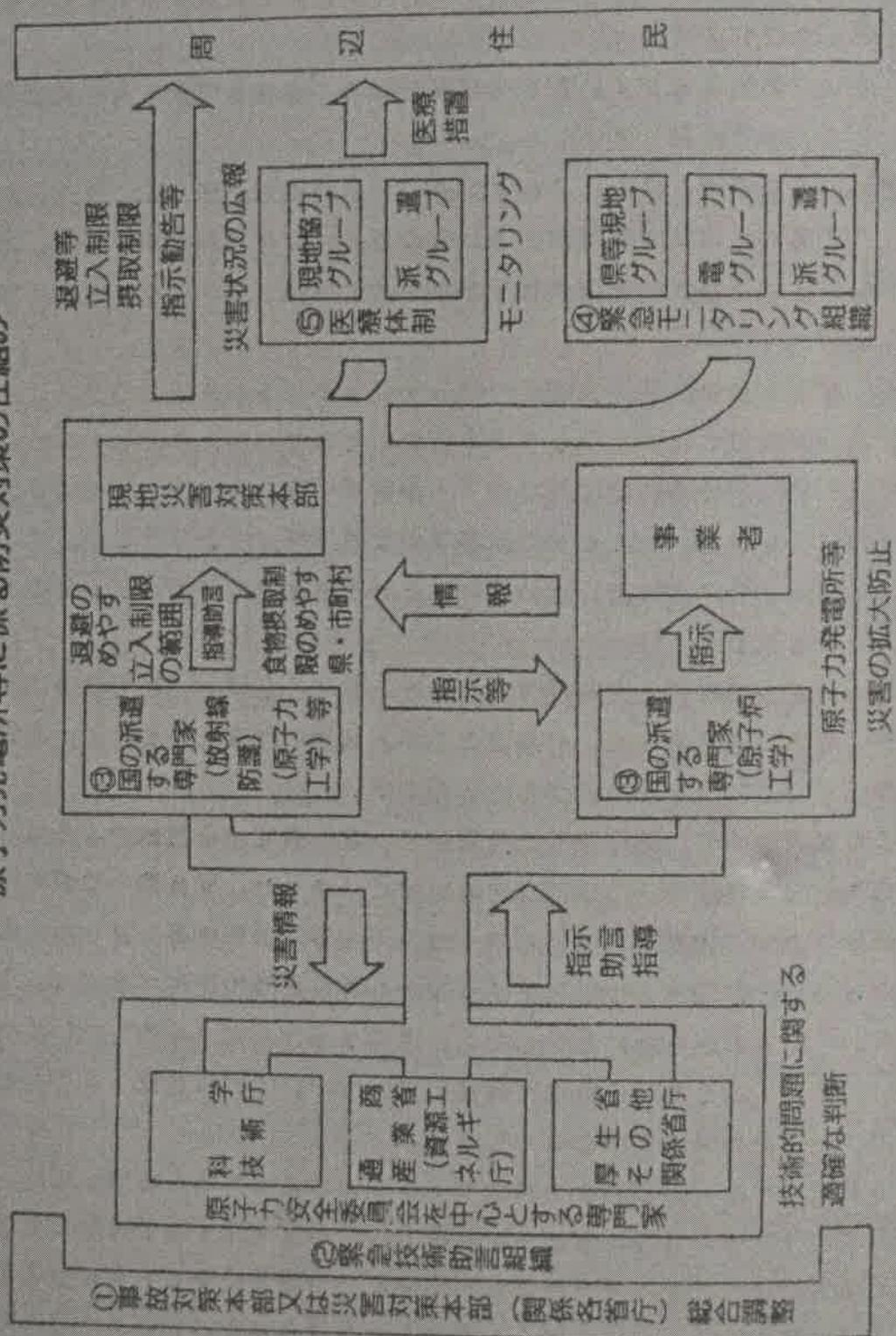
このような状況の中で、万一原子力発電所や、電力会社から冒頭のように「昨日〇〇原子力発電所で、小規模の事故が起こりました。安全第一で炉を停止して検査中ですが、放射能の放出も極く微量で人体には影響ありませんからご安心ください」というような発表があったとしたらどう判断すべきでしょうか。この時、「ああよかったです、たいしたことになかったんだ」と思いたいのが人情です。しかし、ここで「これは大事故に違いない。すぐに避難しよう」と思うかどうかが生死の分かれ目になるでしょう。

考へても見てください。これまで事故やトラブルがあってもひた隠しにし、万一発覚しても「こういうのは事故とか故障とは呼びません」などと訳のわからないことを言い続けてきた電力会社が突然進んで情報を公表するということは、よっぽどの事故に違ひありません。かれらは事故によるパニックを恐れて

いるだけなのです。

発電所や電力会社から事故についての発表があれば、とにかく大事故に遭いありません。ほとんどの場合もう手遅れでしょう。とにかく早く避難しなければなりません。すぐに情報収集を始めましょう。

## 原子力発電所等に係る防災対策の仕組み



出典 平成6年版原子力安全白書、大臣官房印刷局

### III. 避難マニュアル

#### 原発から10km以内で事故発生を知った

とにかく早く避難しなければなりません。最小限の荷物を持ちだす以上の余裕はありません。行動の迅速さにあなたの命はかかっています。主な道路には遮断機が設置されています。閉鎖される前に脱出しましょう。

1. 避難にふさわしい服装をします。 →【21】「避難時の服装」
2. あらかじめ用意してある避難用の荷物を持ってすぐに逃げましょう。もうここには帰ってこれないと思ってください。→【25】「避難時の持ち物」
3. 避難方法は、いかに早く最初の10kmを稼げるかを考えて決定して下さい。  
車で逃げる場合は道路の閉鎖に備えて自転車をもって行ければもって行きましょう。幸運を祈ります。

#### 至近距離で大事故発生

1. 家中の戸や窓をすべて閉めてください。換気扇・エアコンなど、外気が入ってくる可能性があるものはすべて止めてください。放射能が家の中に侵入してくるのを防ぐためです。外の様子がすぐにわかるように、カーテンは開けておきます。
2. 情報入手のため、テレビ・ラジオなどは全部スイッチを入れてください。
3. 汚染されていない、安全な水を確保するため、風呂桶、鍋など、大きな容器にためられるだけ水をためます。
4. ヨウ素剤を飲みます。 →【34】「ヨウ素剤の飲み方」
5. 家族に連絡をとり、落ち合う場所を決めます。
6. 避難にふさわしい服装をします。 →【21】「避難時の服装」
7. すぐに準備できる持ち物だけを用意します。→【25】「避難時の持ち物」
8. 最小限の友人に避難を勧める電話をします。また、留守番電話には自分の避難先と友人に避難を勧めるメッセージを録音します
9. 電気・ガス・水道などを全て切ります。
10. 雨天の場合は→【27】「雨が降ってきたときに」で判断します。
11. 避難を開始します。玄関の鍵は絶対にかけないで下さい（逃げてくる人たちを救うため）。 →【23】「逃げる方向」【23】「避難手段」

## 避難開始まで余裕がある場合

1. 家中の戸や窓をすべて閉めてください。換気扇・エアコンなど外気が入ってくる可能性があるものはすべて止めてください。放射能が家の中に侵入してくるのを防ぐためです。外の様子がすぐにわかるように、カーテンは開けておきます。
2. 情報入手のため、テレビ・ラジオなどは全部スイッチを入れてください。
3. 汚染されていない、安全な水を確保するため、風呂桶、鍋など、大きな容器にためられるだけ水をためます。
4. ヨウ素剤を飲みます → 【34】「ヨウ素剤の飲み方」
5. 家族に連絡をとり、落ち合う場所を決めます。
6. 避難時の持ち物を準備します。 → 【25】「避難時の持ち物」
7. 余裕がある限り、次のことのうち、あなたに重要な順で行ってください。
  - ①食料品の買いだし。
  - ②【33】IVの実施。 → 【33】IV
  - ③友人など、できるだけ多くの人に電話をして避難するよう勧める。留守番電話に自分の避難先と友人へ避難を勧めるメッセージを録音する。
  - ④パソコン通信などのネットワークへ情報を流す。
  - ⑤洗濯物など、屋外に出ているものを取り込む。
8. 避難にふさわしい服装をします。 → 【20】「避難時の服装」
9. 電気・ガス・水道などを全て切ります。
10. 雨天の場合は→【27】「雨が降ってきたときに」で判断します。
11. 避難を開始します。玄関の鍵は絶対にかけないで下さい（逃げてくる人たちを救うため）。 → 【23】「逃げる方向」【23】「避難手段」

## 避難を開始しなければいけない場合

- 「まだ大丈夫」と考えているても、以下の場合はすぐに避難を始めてください。
- 警察、自衛隊、広報車などが出動し、すでに避難の誘導が始まっている。
  - 明らかに放射能が放出されている。
  - 異常に早く「安全宣言」が出された。
  - 近くの道路が避難する人たちでこみ始めている。
  - 原子力関係者が避難を始めたようだ。

## 避難時の服装

空気中には放射能が充満していることが考えられます。また、雨が降った場合は雨と共に大量の放射能が降ってきます。

最も恐ろしいのは放射性物質が体の中に入り込んでしまう内部被曝です。これを防ぐには、汚染された空気を吸い込まないこと、汚染された食品を食べないことが重要です。また、傷口からも放射性物質は入り込みます。

ですから、マスクは必需品です。できるだけ厚手の物を使って下さい。農薬散布や工場で使う防毒マスク。防塵マスクが最適です。普通のマスクしかない場合はハンカチを当てて厚くし、水に浸すなどして、放射性の塵を少しでも防いで下さい。

次に、外部被曝量を減らすためには、体表に放射性の塵が付着しないようにしなければなりません。したがって、避難時の服装は、外気を遮断すること、雨を防ぐことが必要です。

全身をビニールかゴムの雨ガッパで包みましょう。ビニールの雨ガッパがない人は、できるだけ水や空気を通さない材質の上着を着て下さい。フードがあるものの方がベターです。ズボンも同様にビニールの雨具などの、水や空気を通さないものを着用してください。靴は、長靴がいいでしょう。手にもゴム手袋をはめて下さい。

雨具の合わせめ、上着とズボン、袖口と手袋、ズボンと長靴の縫ぎ目など、隙間という隙間をすべてガムテープで塞ぎます。できれば頭にも水がかからない工夫をします。目は、水中眼鏡やスキー用のゴーグルなどで守ります。

もし、雨ガッパの準備がない場合は、ゴミを入れる大きなビニール袋で、頭